

2月議会 しもおく議員

3月14日に開催された振興環境委員会(環境部関係)の主なやりとりを紹介します。

「石炭火力の可否は国が判断するもの」 県は温室効果ガス排出削減に消極的な姿勢

しもおく議員は、環境部の「地球温暖化対策室」が「地球温暖化対策課」に組織改正されることを取り上げて質問しました。

対策室から対策課になることでどう変わるかとの質問に対して県は、「『あいち地球温暖化防止戦略2030』の目標達成に向けての取り組みをしっかりと進めるために県の執行体制を強化した」と回答しました。合わせて、温室効果ガス総排出量の削減目標について、「2030年度を目標年度、2013年度を基準年度としている18県のうち、愛知と同じ目標の26%削減が7県で最も多い」と述べました。

しもおく議員は、「地球温暖化は、二酸化炭素などの温室効果ガスなどの増加が原因。温室効果ガスの発生を減らし、気温の上昇を抑えることが地球温暖化対策の一番重要な点だと考える」と訴えました。県は、「すべての国が協力して、温室効果ガスを減らしていくことが重要と認識している」と答いました。

しもおく議員は、「温室効果ガス排出量の削減目標を掲げながら、一方で武豊石炭火力を止めることはしていない。地球温暖化対策を推進するのであれば、石炭火力はそれ逆行するのではないか」と質しました。県は、「石炭火力などの発電事業は国のエネルギー政策に関わるものである。温室効果ガスの排出削減対策については、電力業界が取り組みを進めており、国の動向を注視していく」と、県としての発電事業における温室効果ガス排出削減について消極的な姿勢を示しました。

しもおく議員は、「世界の流れは脱石炭です。温室効果ガス排出量が増加する武豊火力発電リプレース計画は中止を求めるべきではないか」と追及しました。県は、「事業の可否について、国が判断するものと考えている」と回答しました。

リニア工事に伴う美濃帯の掘削ーアセスをやり直すべき

しもおく議員は、リニア工事に伴っての美濃帯の掘削工事について質問しました。美濃帯は東濃地域に特徴的にみられる堆積岩で黄鉄鉱が含まれています。過去に、東濃地域のトンネル工事での掘削土から黄鉄鉱に起因した硫酸などの酸性水や重金属の流失が発生しています。

しもおく議員は、「美濃帯を掘削した土砂を起因として、硫酸等の酸性水や溶出した重金属が流出した事象が発生しているため、市東部地区の美濃帯地層の

掘削土砂により、同様な事態が生ずることがないよう十分に調査、対策を行うこと」という春日井市から出された意見書をふまえて、「リニア工事では、春日井市や多治見、可児、御嵩などで、美濃帯にぶつかる可能性があるが、こういった声にJR東海は応えていないのではないか」と問い合わせました。県は、「適切な調査計画の策定や対策を行うよう、JR東海に対し引き続き要請していく」と述べるに留まりました。

絶滅危惧種のアカウミガメの保護

しもおく議員は、絶滅危惧種に選定された貴重なアカウミガメの保護について取り上げました。米国、メキシコ、日本の3ヵ国で、アカウミガメの共同回復計画をつくることになっています。しもおく議員は、「日本でも有数の貴重な産卵場所である豊橋市の表浜海岸のある愛知県としても、この共同回復計画を大いに支援していただきたい」と要請しました。県は、「詳細が不明であるため、支援の有無について答えられない」という態度でした。

アカウミガメの産卵回数は、2012年をピークにして

2013年から3年連続して減少。14年と15年はそれぞれ前年比の約4割の減少となっています。しもおく議員は、「県としてこの問題をどうとらえているのか」と質問しました。県は、「産卵に適した砂浜を維持することが重要」と答弁しました。しもおく議員は、「砂浜の減少の根本は天竜川からの土砂の減少に問題がある。貴重なアカウミガメを守ることにつながる砂浜保全について研究を深め対応していくことが必要」と指摘しました。

